

令和5年度

# 学生によるオレンジリボン運動

## 日本社会事業大学 実施報告書



**実施主体** ボランティアサークル「オレンジクレヨン」

**実施内容** オープンキャンパス・学園祭・学内の図書館での啓発、小山市慰霊碑の訪問、カンガルーOYAMA と小山市社会福祉協議会との面談、オレンジリボン運動全国報告会への参加(二次審査まで)

### ①事前に取り組んだ内容

- ・オレンジリボン運動そのものや具体的な活動内容を調べた。
- ・オレンジリボン運動の起源となった小山市の児童虐待死事件についても調べ、活動の意義への理解を深めた。
- ・他大学の活動についても調べ、実践できそうなものをいくつかピックアップした。
- ・オープンキャンパスで啓発する際のスライドや原稿の作成を行った。
- ・オープンキャンパスや学祭の来場者に向けて、アンケートやリボンの作成を行った。
- ・学祭や図書館での啓発のための啓発展示物を作成した
- ・小山市の慰霊碑の訪問を前に事件当時の新聞記事を見て、事件の悲惨さを再確認した。
- ・下野新聞社が公開しているカンガルーOYAMA 代表の太久保さんのインタビュー記事を読み、当日に向けての質問等を考えた。
- ・オレンジリボン運動全国報告会に向けて、エントリーシートの作成、発表用動画の作成を行った。

### ②実施期間に取り組んだ具体的内容

オープンキャンパスでは来場した高校生やその保護者を対象にオレンジリボン運動とそのきっかけとなった事件などを紹介した後、具体的な他団体の取り組みを紹介した。またオレンジリボン作成のワークショップも行い、実際に活動に参加してみた感想をメッセージカードに書いていただいた。そしてそのメッセージカードを学祭で展示した。さらにアンケートに答えていただき、啓発の効果を確認した。

学祭では来場者への189などの相談ダイヤルや窓口が書かれた台紙とともにオレンジリボンを配布した。また子ども向けの啓発展示物や前述のメッセージカードの展示と合わせて、随時大人へ口頭でオレンジリボン運動の説明を行った。アンケートに答えていただき、集計結果から活動の効果を確認した。

11月の児童虐待防止推進月間では学内の図書館で子ども虐待に関する絵本(子どものトラウマ治療のための絵本シリーズなど)のPOPを作成し、展示コーナーにはオレンジリボン運動に関するちらしを用意した。また学祭で展示した啓発物も展示し、啓発を行った。

小山市の慰霊碑の訪問では慰霊碑の掃除、周辺の草抜き、おもちゃのお供えなどをした後、代表者による祈りの言葉と黙とうを捧げた。メンバー一人一人がそれぞれの思いを持ちながら、凄惨な虐待死事件で亡くなった兄弟の魂を慰め、訪問後にはメンバー同士で感じたことを共有し、オレンジリボン運動の意義を再認識した。

小山市社会福祉協議会での面談では、カンガルーOYAMA 代表の久保さんをはじめ、関係者の方々と意見交換を行った。またカンガルーOYAMA の歴史について聞き、質疑応答をさせていただいた。そこから、啓発活動の継続が最も大切であることを学んだ。

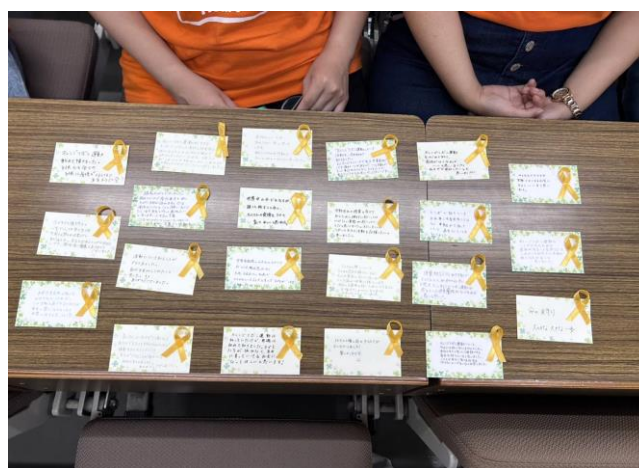
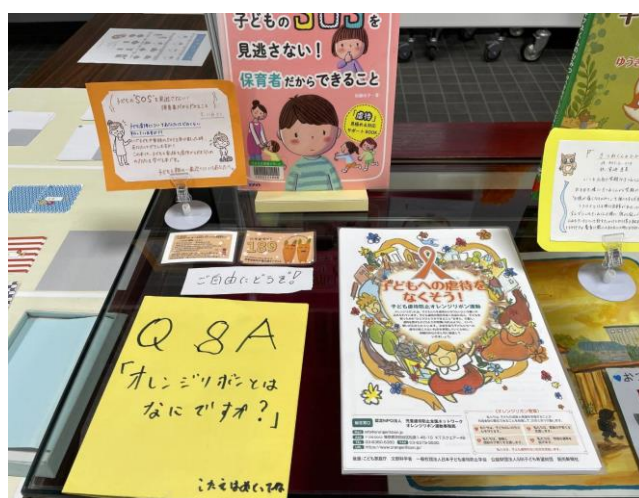
オレンジリボン運動の全国報告会では団体として得た経験を他の団体の参考にしてもらいたいという思いから、「立ち上げ1年目のプロセスモデル」という仮説を軸に発表内容を練った。そしてオレンジリボンスタートアップガイドと題し、最終候補に残るためにメンバー同士で私たちの伝えたいことについて何度も議論を重ね、パワーポイントや音声吹き込み用の原稿と動画を作成した(オレンジリボンスタートアップガイド! みんなもできる立ち上げのポイント)。惜しくも全国報告会での報告の機会は得られなかった。しかし、全国報告会を視聴し、他校の実践から学ばせてもらい、今後の活動への活かし方を考えた。

### ③オレンジリボン運動を終えて・・・

最初はオレンジリボン運動が何かも分からない状態から、手探りで始めた。次第に、オレンジリボン運動をやることの意義に気づき、全国報告会にエントリーするに至るまで活動が進展していった。その一方、当初活動を作ってくれていたメンバーの温度差が生まれるなど新たな課題が多く見つかった。メンバーが活動の楽しさ・面白さに気付けるようになることが今後の目標であり、ともに啓発活動を行ってくれる仲間を集めるのが当面の課題である。私たちのみならず、啓発活動を行う人、すなわち啓発活動を知っていて活動に興味のある人が増えれば、啓発活動の効果はぐっと高まる。だからこそ、啓発活動に参加しながらオレンジリボン運動を好きになる「仲間たち」になっていくことが最大の啓発活動である。メンバーの活動への意欲が「inspired」するような「私たちのオレンジリボン運動」を今後も作り上げていきたい。同時にそれぞれの思いを語り合える語りの場を保障し、「私たちのオレンジリボン運動」への想いを形にしていけるように今後も活動に励んでいきたい。

最後に、これを見ている人に「啓発活動の対象者は活動を知らない人たちだけではない。共に想いを紡いでいく私たちでもあるのだ」と伝えたい。

### 写真



動画「[オレンジリボンスタートアップガイド! みんなもできる立ち上げのポイント](#)」



これから初めて活動を始めるときのお役に立てばうれしいです。

【学校名】 <https://www.jcsw.ac.jp/>